

日本宗教

日本文化の中の宗教

古代からグローバル時代に至る
宗教のポリティクス

小原 克博 (<http://www.kohara.ac>)

こはら かつひろ

授業担当者：小原 克博

- 同志社大学 神学部・神学研究科 教授
- 同志社大学 良心学研究センター センター長
- 一神教学際研究センター長（2010-2015年）、京都・宗教系大学院連合 議長（2013-2015年）、京都民医連中央病院 倫理委員会 委員長（2003-09年、2010-18年）、宗教倫理学会 会長（2016-18年）等を歴任。

こはら かつひろ

授業担当者：小原 克博

- 専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究
- 先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治の関係、および、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論に取り組んでいます。著書に『ビジネス教養として知っておきたい世界を読み解く「宗教」入門』（日本実業出版社）、『一神教とは何か — キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）『宗教のポリティクス— 日本社会と一神教世界の邂逅』（晃洋書房）、『神のドラマトゥルギー— 自然・宗教・歴史・身体を舞台として』（教文館）などがあります。

Overview

- 講義概要
- 宗教と文化
- 宗教を学ぶ意義

講義概要（シラバスより）

この授業では、日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を学びます。その際、古代世界からグローバル世界までを時代背景として、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったのかを考えていきます。

この授業はブレンディッド・ラーニングとして実施され、主体的に学びたい方のためのものです。この授業は、オンデマンド授業8回、教室での対面授業5回、フィールドワーク2回によって構成されています。詳しいことは初回の授業で説明します。下記「授業計画」において各オンデマンド授業に付されている日付は課題提出の締め切り日を示していません（教室での授業はありません）。都合のよい時間にオンデマンド動画で学習し、リーディング・アサインメント（下記「授業計画」を参照）を完了した後、各回で示された課題を期日までにe-class（同志社大学のラーニング・マネージメント・システム）上に提出していただきます。

また、学びの成果を確認し、理解を深めるために教室での対面授業（ディスカッションを中心としたアクティブラーニング）を行います。フィールドワーク（現地集合・現地解散）は、実際の宗教施設において、その伝統（宗教建築・芸術を含む）や教えに触れることを目的としています。この授業は、教室授業の回数が少なく、学習時間の自由度は高いですが、学習量は決して少なくありません。真剣に学びたい人のみ、履修するようにしてください。

ブレンディッド・ラーニングの目的

「工場型」一斉授業（教師主導）

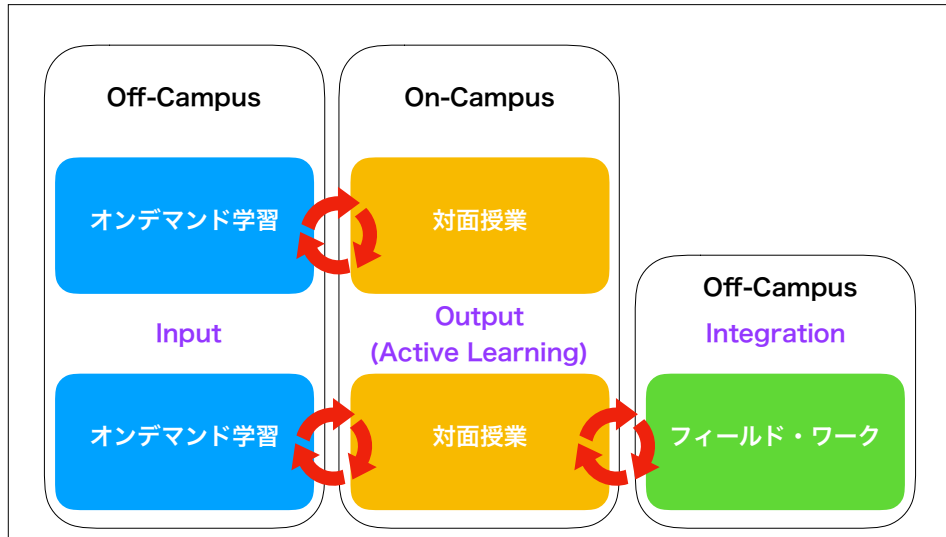


特定の場所・時間からの解放

個別学習 + 学生主導

フィールド・ワーク





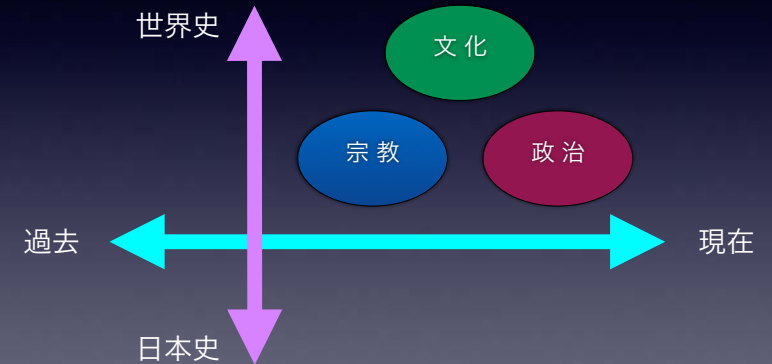
この授業では伝統的な日本宗教として、神道、仏教、儒教、道教などを取り上げます。仏教、儒教、道教は中国・朝鮮半島経由で日本に入ってきた外来宗教ですが、それ以前にあった日本の土着の伝統と相互に影響を及ぼし合いながら、日本宗教の多様性と一体性を形成してきました。また、古代世界の頃から、宗教は共同体や社会と深い関係を持っています。仏教が国教的役割を果たした時代もありました。宗教の教えの側面だけでなく、宗教のポリティクスについても、この授業では重点的に扱っていきます。

明治期以降、日本社会は欧米の視線を強く意識することになり、それは日本宗教にも大きな影響をもたらしました。キリシタン弾圧以降、キリスト教との再度の接触も、この時期に本格的に始まります。時代の変化の影響を受ける形で、多くの新宗教も誕生し、現代の日本宗教の重要な一部を占めるようになっていきます。この授業では、新旧の日本宗教を一国史の中で自閉的に語るのではなく、世界史的な比較の視点から展望していきます。

キリスト教をはじめとする一神教の伝統は、日本宗教とはかなり異なる性格を持っています。しかし、そうした一神教の歴史観や自然観をも視野に入れることによって、日本文化に根ざした歴史観や自然観を、より客観的に見ることができるようになります。この授業では、そうした比較宗教学視点を通じて、そもそも「宗教」とは何なのか、ということについても理解を深め、グローバル社会における日本宗教の語り方を考えていきます。

現代の日本社会は、あまり宗教的ではないと言われます。しかし、その一方で、霊魂やあの世（来世）の存在は当たり前のように受けとめられています。たとえば、日本の漫画やアニメには、しばしば日本の伝統的宗教観が反映されています。授業では漫画やアニメなども素材として利用していく予定です。

この授業の特徴



授業の構成

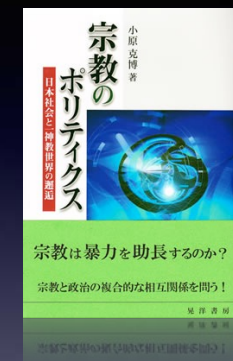
1	導入	
2-9	日本宗教の形成と展開	2 [4/16] (オンデマンド 1) 宗教の風景——日本宗教を概観する
		3 [4/23] (オンデマンド 2) 神々の世界（神道）、仏教以前・仏教伝来
		4 [5/ 7] (フィールドワーク 1) 上賀茂神社
		5 [5/14] (教室 2) アクティブラーニング
		6 [5/21] (オンデマンド 3) 平安時代の宗教、鎌倉仏教
		7 [5/28] (オンデマンド 4) 禅とその文化、近世の宗教
		8 [6/ 4] (フィールドワーク 2) 西本願寺
		9 [6/11] (教室 3) アクティブラーニング
		10-15
11 [6/25] (オンデマンド 6) 一神教と多神教、宗教の多元化と多元主義		
12 [7/ 2] (教室 4) アクティブラーニング		
13 [7/ 9] (オンデマンド 7) 信仰の土着化とナショナリズム		
14 [7/16] (オンデマンド 8) 現代社会における宗教の役割		
15 [7/23] (教室 5) アクティブラーニング、総括		

Facts

Theories



小原克博『ビジネス教養として知っておきたい世界を読み解く「宗教」入門』日本実業出版社、2018年



小原克博『宗教のポリティクス——日本社会と一神教世界の邂逅』晃洋書房、2010年

成績評価基準

オンデマンド授業での課題提出（各回5%×8回）	40%	毎回の課題に誠実に取り組んでいるかを評価します。
教室での対面授業、フィールドワークへの出席（各回5%×6回）	30%	ディスカッションでの積極的な貢献を評価します。なお、10分以上の遅刻は出席としませんのでご注意ください。交通遅延等、不可避の事情があった場合には証明書を出していただければ考慮いたします。
期末試験	30%	授業で扱った内容の内、基本的な項目を出題します。

宗教と文化





宗教と文化

Religion as ultimate concern is the meaning-giving substance of culture, and culture is totality of forms in which the basic concern of religion expresses itself. In abbreviation: religion is the substance of culture, culture is the form of religion.

Paul Tillich, *Theology of Culture*, 1964, p.42

- Traditional religion is the substance of traditional culture, traditional culture is the form of traditional religion.
- New religiosity is the substance of popular/sub culture, popular/sub culture is the form of new religiosity.

文化としてのマンガ、アニメ





宗教を学ぶ意義

- 人間を知る
- 世界を知る（読み解く）
- 世界（宇宙）に対する見方（コスモロジー）を豊かにする
- 科学的世界観を批判的に対象化する

同志社において宗教を学ぶ意義

- 同志社はキリスト教主義なのだから、キリスト教だけを学べばよいのではないか。
- 新島襄や宣教師たちの他宗教理解は、どのようなものであったか。

基督教主義とは？

これ基督教主義をもって、我が同志社大学**徳育の基本**と為す所以、而してこの教育を施さんが為に、同志社大学を設立せんと欲する所以なり。

吾人の目的かくのごとし。もしそれこの事を目して基督教拡張の手段なり、伝道師養成の目的と云う者は、未だ吾人が心事を知らざる人なり。吾人が志す所の者、なおその上に在るなり。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

同志社において宗教を学ぶ意義

- キリスト教主義の再解釈（アップグレード）
- 希釈されたキリスト教ではなく、他の宗教を「愛以てこれを貫く」（『新島襄 教育宗教論集』177頁）濃密さをもったキリスト教。
- イエスの越境的な愛の力を知る。